

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-58305
(P2024-58305A)

(43)公開日 令和6年4月25日(2024.4.25)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 C 17/02 (2006.01)	A 4 7 C 17/02	Z 3 B 2 6 0
A 4 7 B 83/02 (2006.01)	A 4 7 B 83/02	
A 4 7 B 81/00 (2006.01)	A 4 7 B 81/00	A
A 4 7 B 83/00 (2006.01)	A 4 7 B 83/00	

審査請求 未請求 請求項の数 10 O L (全21頁)

(21)出願番号	特願2022-165583(P2022-165583)	(71)出願人	000000561 株式会社オカムラ 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
(22)出願日	令和4年10月14日(2022.10.14)	(74)代理人	100149548 弁理士 松沼 泰史
		(72)発明者	吉田 龍介 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号 株式会社オカムラ内
		Fターム (参考)	3B260 AB01 AB02 AB06 AB07 AC01

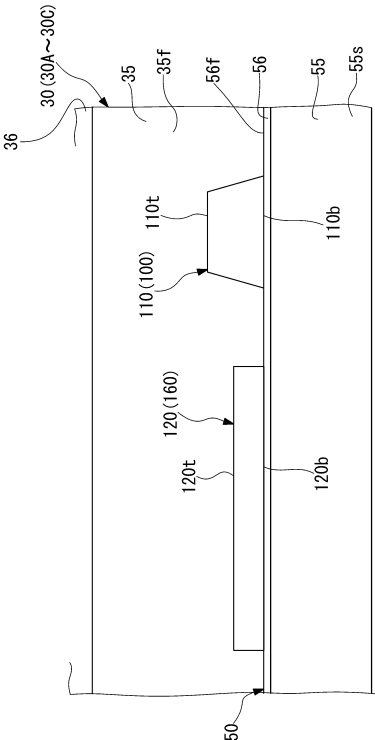
(54)【発明の名称】 什器ユニット

(57)【要約】

【課題】執務空間の利用価値を高める什器を提供する。

【解決手段】什器は、床面上に配置された着座什器50と、複数種の中から選択された少なくとも二種のオプション部材100と、を含む。着座什器50は、上方を向いて荷重を支持可能な平滑面56fを有し、オプション部材100は、平滑面56f上に載置され、かつ平滑面56f上における載置位置が、第二方向で変更可能とされている構成とした。

【選択図】 図14



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

床面上に配置された着座什器と、
複数種の中から選択された少なくとも二種のオプション部材と、を含む什器ユニットであって、

前記着座什器は、

上方から見た際に前記床面に沿った幅方向に延び、かつ、上方を向いて荷重を支持可能な平滑面を有し、

前記オプション部材は、前記平滑面上に載置され、かつ前記平滑面上における載置位置が、前記幅方向で変更可能とされている

什器ユニット。

10

【請求項 2】

前記着座什器は、

前記床面上に配置されたベース部と、

前記平滑面を有し、前記ベース部上に配置された上面部材と、を含む

請求項 1 に記載の什器ユニット。

【請求項 3】

複数種の前記オプション部材は、高さが異なる

請求項 1 又は 2 に記載の什器ユニット。

【請求項 4】

複数種の前記オプション部材は、上方から見た際の平面形状が異なる

請求項 1 又は 2 に記載の什器ユニット。

20

【請求項 5】

前記オプション部材は、前記平滑面上に載置した状態で、着座可能である

請求項 1 又は 2 に記載の什器ユニット。

【請求項 6】

前記オプション部材は、上下方向の一方側を向くとともに、上下方向の一方側を前記平滑面に向けた状態で前記オプション部材を前記平滑面上に載置した際に、前記平滑面に支持される第一平面部を有する

請求項 1 又は 2 に記載の什器ユニット。

30

【請求項 7】

前記オプション部材は、上下方向の他方側を向くとともに、前記第一平面部よりも硬い材料で形成された第二平面部を有する

請求項 6 に記載の什器ユニット。

【請求項 8】

前記オプション部材は、上面に作業面を形成するテーブル天板と前記平滑面との間に配置されて、前記テーブル天板を下方から支持する

請求項 1 又は 2 に記載の什器ユニット。

【請求項 9】

上方から見た際に、前記床面上において前記幅方向に交差する交差方向で前記着座什器から離間した位置には、上方に延びる支持部材が設けられ、

前記テーブル天板は、前記交差方向において前記平滑面から張り出すように延びるとともに、前記オプション部材と前記支持部材との間に架け渡されている

請求項 8 に記載の什器ユニット。

40

【請求項 10】

前記着座什器に対し、上方から見た際に、前記幅方向に交差する交差方向の第一側に配置され、前記床面上の空間を前記交差方向の第一側と第二側とに仕切る仕切機能、物品を収容する物品収容機能、物品を載置する物品載置機能のうちの少なくとも一つの機能を有する機能部を備えた機能部材、を更に備える

請求項 1 又は 2 に記載の什器ユニット。

50

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、什器ユニットに関する。

【背景技術】

【0002】

オフィスや公共施設等における執務空間においては、ソファやベンチ等の着座可能な着座什器が用いられることがある。

例えば、特許文献1には、複数のモジュール家具を組み合わせた段状のユニットを備え、各モジュール家具の天面に、複数のクッション体が載置された構成が開示されている。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2020-039823号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、上記したような構成においては、利用者は、段状のユニットのクッション体上に着座可能であるものの、いずれの段においても、クッション体上の着座面と、足を置く面との段差は同一である。このため、着座姿勢は、いずれの段に着座しても同様なものとなり、使用形態の自由度が高いとは言えない。

20

本発明は、使用形態の自由度を高めることができる什器ユニットを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記課題を解決するために、本発明は以下の態様を採用した。

(1) 本発明の一態様に係る什器ユニットは、床面上に配置された着座什器と、複数種の中から選択された少なくとも二種のオプション部材と、を含む什器ユニットであって、前記着座什器は、上方から見た際に前記床面に沿った幅方向に延び、かつ、上方を向いて荷重を支持可能な平滑面を有し、前記オプション部材は、前記平滑面上に載置され、かつ前記平滑面上における載置位置が、前記幅方向で変更可能とされている。

30

本態様によれば、着座什器の平滑面上に、少なくとも二種のオプション部材を載置することで、利用者は、オプション部材を用いて様々な形態で着座什器に着座することができる。例えばオプション部材がクッションである場合、利用者は、着座什器の平滑面上にオプション部材を介して着座することで、座り心地の向上や座面高さの変更を実現できる。また、利用者は、利用者が平滑面上に着座した状態でオプション部材上に物品を載置することで、物品を使用する際の作業性の向上や物品の転倒抑制等を図ることができる。しかも、オプション部材は、平滑面上における載置位置が幅方向で変更可能であるため、平滑面上の任意の位置に着座することができる。これにより、例えば複数人で什器ユニットを利用した場合、各人が幅方向の好きな位置で好きなオプション部材を利用することができる。したがって、使用形態の自由度を高めることが可能となる。

40

【0006】

(2) 上記(1)の態様に係る什器ユニットにおいて、前記着座什器は、前記床面上に配置されたベース部と、前記平滑面を有し、前記ベース部上に配置された上面部材と、を含むことが好ましい。

本態様によれば、ベース部上に上面部材を設けることで、オプション部材が載置可能な平滑面を有した着座什器を容易に形成することができる。

【0007】

(3) 上記(1)又は(2)の態様に係る什器ユニットにおいて、複数種の前記オプション部材は、高さが異なることが好ましい。

50

本態様によれば、高さが異なる少なくとも二種のオプション部材を、着座什器の平滑面上に載置することで、利用者は、好みの高さに応じたオプション部材を利用することができる。

【0008】

(4) 上記(1)から(3)の何れかの態様に係る什器ユニットにおいて、複数種の前記オプション部材は、上方から見た際の平面形状が異なることが好ましい。

本態様によれば、平面形状が異なる少なくとも二種のオプション部材を、着座什器の平滑面上に載置することで、利用者は、用途等に応じて、好みの平面形状を有したオプション部材を利用することができる。

【0009】

(5) 上記(1)から(4)の何れかの態様に係る什器ユニットにおいて、前記オプション部材は、前記平滑面上に載置した状態で、着座可能であることが好ましい。

本態様によれば、少なくとも二種のオプション部材を、着座什器の平滑面上に載置することで、利用者は、好みの種類のオプション部材上に着座することができる。

【0010】

(6) 上記(1)から(5)の何れかの態様に係る什器ユニットにおいて、前記オプション部材は、上下方向の一方側を向くとともに、上下方向の一方側を前記平滑面に向けた状態で前記オプション部材を前記平滑面上に載置した際に、前記平滑面に支持される第一平面部を有することが好ましい。

本態様によれば、オプション部材の第一平面部を平滑面に向けた状態で、オプション部材を平滑面上に載置することで、オプション部材を安定的に平滑面上に支持させることができる。

【0011】

(7) 上記(6)の態様に係る什器ユニットにおいて、前記オプション部材は、上下方向の他方側を向くとともに、前記第一平面部よりも硬い材料で形成された第二平面部を有することが好ましい。

本態様によれば、オプション部材の第一平面部を平滑面に向けた状態で、オプション部材を平滑面上に載置することで、第一平面部よりも硬い材料で形成された第二平面部が、上方を向く。これにより、第二平面部上に、物品を安定的に載置することができる。

【0012】

(8) 上記(1)から(7)の何れかの態様に係る什器ユニットにおいて、前記オプション部材は、上面に作業面を形成するテーブル天板と前記平滑面との間に配置されて、前記テーブル天板を下方から支持することが好ましい。

本態様によれば、着座什器の平滑面上に、オプション部材を介してテーブル天板を設けることができる。これにより、利用者は、着座什器を、より高い自由度で利用することができる。

【0013】

(9) 上記(8)の態様に係る什器ユニットにおいて、上方から見た際に、前記床面上において前記幅方向に交差する交差方向で前記着座什器から離間した位置には、上方に延びる支持部材が設けられ、前記テーブル天板は、前記交差方向において前記平滑面から張り出すように延びるとともに、前記オプション部材と前記支持部材との間に架け渡されていることが好ましい。

本態様によれば、テーブル天板を、平滑面上に載置されたオプション部材と、床面上に配置した支持部材とで、支持することができる。

【0014】

(10) 上記(1)から(9)の何れかの態様に係る什器ユニットにおいて、前記着座什器に対し、上方から見た際に、前記幅方向に交差する交差方向の第一側に配置され、前記床面上の空間を前記交差方向の第一側と第二側とに仕切る仕切機能、物品を収容する物品収容機能、物品を載置する物品載置機能のうちの少なくとも一つの機能を有する機能部を備えた機能部材、を更に備えることが好ましい。

10

20

30

40

50

本態様によれば、機能部を備えた機能部材をさらに備えることで、什器ユニットの使用形態の自由度を、さらに高めることが可能となる。

【発明の効果】

【0015】

本発明の一態様によれば、執務空間の利用価値を高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明の実施形態に係る什器システムにおける複数の什器のレイアウト例を示す平面図である。

【図2】什器システムを構成する一つの什器を示す斜視図である。

10

【図3】什器システムを構成する一つの什器を図2とは異なる方向から見た斜視図である。

【図4】什器システムを構成する一つの什器を第二方向から見た側面図である。

【図5】什器システムを構成する他の一つの什器を示す斜視図である。

【図6】什器システムを構成する他の一つの什器を図5とは異なる方向から見た斜視図である。

【図7】什器システムを構成する他の一つの什器を第二方向から見た側面図である。

【図8】什器システムを構成するさらに他の一つの什器を示す斜視図である。

【図9】什器システムを構成するさらに一つの什器を図8とは異なる方向から見た斜視図である。

20

【図10】什器を第二方向から見た断面図である。

【図11】第一着座部を、第一方向から見た断面図である。

【図12】ベース部同士の連結構造を示す断面図である。

【図13】着座什器の平滑面上に載置されたオプション部材の例を示す平面図である。

【図14】着座什器の平滑面上に載置されたオプション部材の例を示す正面図である。

【図15】着座什器の平滑面上に載置された他のオプション部材の例を示す正面図である。

【図16】他のオプション部材の例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

30

次に、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。以下で説明する実施形態や変形例において、対応する構成については同一の符号を付して説明を省略する場合がある。なお、以下の説明において、例えば「平行」や「直交」、「中心」、「同軸」等の相対的又は絶対的な配置を示す表現は、厳密にそのような配置を表すのみならず、公差や同じ機能が得られる程度の角度や距離をもって相対的に変位している状態も表すものとする。

【0018】

<什器システム1>

図1は、本実施形態に係る什器システム1における複数の什器（什器ユニット）10のレイアウト例を示す平面図である。

図1に示すように、什器システム1は、複数の什器10を備えている。複数の什器10は、オフィス、公共施設等における執務空間Rに配置されている。複数の什器10は、それぞれ執務空間Rの床面F上に配置されている。複数の什器10は、床面Fに沿った方向に間隔をあけて配置されている。本実施形態において、什器システム1は、例えば、複数の什器10として、3台の什器10A、10B、10Cを備えている。

40

本実施形態において、3台の什器10A、10B、10Cは、後に詳述するように、種類が異なっている。

【0019】

以下の説明では、執務空間R（什器システム1全体）における上下方向に直交する座標系をそれぞれX方向、Y方向とする。また、各什器10A～10Cそれぞれにおいて、上下方向に直交する座標系を第一方向（交差方向）Da、第二方向（幅方向）Dbとする。

50

この場合、什器 10 B は、什器 10 A に対して第一方向 D a 及び第二方向 D b の向きを 90° 異ならせて配置されている。什器 10 C は、什器 10 A に対して第一方向 D a 及び第二方向 D b の向きを 180° 異ならせて配置されている。

【0020】

< 什器 10 >

図 2 は、什器システム 1 を構成する一つの什器 10 A を示す斜視図である。図 3 は、什器システム 1 を構成する一つの什器 10 A を図 2 とは異なる方向から見た斜視図である。図 4 は、什器システム 1 を構成する一つの什器 10 A を第二方向 D b から見た側面図である。図 5 は、什器システム 1 を構成する他の一つの什器 10 B を示す斜視図である。図 6 は、什器システム 1 を構成する他の一つの什器 10 B を図 5 とは異なる方向から見た斜視図である。図 7 は、什器システム 1 を構成する他の一つの什器 10 B を第二方向 D b から見た側面図である。図 8 は、什器システム 1 を構成するさらに他の一つの什器 10 C を示す斜視図である。図 9 は、什器システム 1 を構成するさらに一つの什器 10 C を図 8 とは異なる方向から見た斜視図である。

10

【0021】

図 2 ～図 9 に示すように、各什器 10（什器 10 A、10 B、10 C）は、それぞれ、什器本体 20 と、着座什器 50 と、を備えている。

【0022】

< 什器本体 20 >

什器本体 20 は、什器部材 21 と、機能部材 30 と、を備えている。各什器 10（什器 10 A、10 B、10 C）において、什器部材 21 は、例えば、ソファである。什器部材 21 は、例えば、上方から見た際の平面形状が長方形とされている。什器部材 21 は、第一方向 D a を短辺とし、上方から見た際に第一方向 D a に交差する第二方向 D b を長辺とする、長方形とされている。

20

【0023】

図 10 は、什器 10 A ～ 10 C を第二方向 D b から見た断面図である。

図 10 に示すように、什器 10 A ～ 10 C において、什器部材 21 は、什器ベース部 25 と、座部 26 と、を備えている。

什器ベース部 25 は、床面 F 上に設けられている。什器ベース部 25 は、座部 26 を下方から支持している。什器ベース部 25 は、例えば金属製の箱型で、一对の側板 25 a と、後板 25 b と、前板 25 c と、を有している。なお、什器ベース部 25 は、金属製に限らず、木製、樹脂製等であってもよい。

30

【0024】

一对の側板 25 a は、第二方向 D b（図 10 において紙面に直交する方向）に間隔をあけて設けられている。各側板 25 a は、第二方向 D b に直交する面に沿っている。

後板 25 b は、什器ベース部 25 において、第一方向 D a の第二側 D a 2 に配置されている。後板 25 b は、一对の側板 25 a の第一方向 D a の第二側 D a 2 の端部同士を接続している。後板 25 b は、第一方向 D a に直交する面に沿っている。

【0025】

前板 25 c は、什器ベース部 25 において、第一方向 D a の第一側 D a 1 に配置されている。前板 25 c は、一对の側板 25 a の第一方向 D a の第一側 D a 1 の端部同士を接続している。前板 25 c は、第一方向 D a に交差する面に沿っている。本実施形態において、前板 25 c における第一方向 D a の第一側 D a 1 を向く面は、第二方向 D b から見た際に、上方から下方に向かって、第一方向 D a の第二側 D a 2 に傾斜している。什器ベース部 25 の下端部には、下方に向けて突出し、床面 F 上に立脚する脚部 25 f が設けられている。

40

【0026】

座部 26 は、什器ベース部 25 上に設けられている。座部 26 は、上下方向に所定の厚さを有し、その上面に、上方を向く什器着座面 26 f を有している。座部 26 は、弾力性を有したクッション（不図示）と、クッションの表面を覆うように設けられたクッション

50

カバー 26 c と、を備えている。このような座部 26 は、什器ベース部 25 の上端部に、適宜のブラケット、ビス（不図示）等により固定されている。これにより、什器ベース部 25 の上端開口部が閉塞されている。

【0027】

なお、本実施形態において、什器 10 A、10 B、10 C は、それぞれ什器部材 21 としてソファを備えているが、これに限られない。什器 10 A、10 B、10 C において、什器部材 21 として、ソファ以外の、例えば、デスク、テーブル、椅子等の作業用什器を備えていてもよい。さらに、什器 10 A、10 B、10 C においては、什器部材 21 として、互いに異なる種類のものを備えていてもよい。

【0028】

＜機能部材 30＞

什器 10 A、10 B、10 C において、機能部材 30 は、その構成の少なくとも一部が異なっている。なお、以下の説明において、什器 10 A、10 B、10 C 間で共通する構成については、同符号を付して、その説明を省略することがある。

図 1～図 4 に示すように、什器 10 A の機能部材 30 A は、第一仕切パネル 32 と、第二仕切パネル 33 A と、を備えている。

【0029】

第一仕切パネル 32 は、什器部材 21 に対して、第一方向 D a の第二側 D a 2 に設けられている。第一仕切パネル 32 は、上方から見た際に、第二方向 D b における什器部材 21 の全体にわたって、第二方向 D b に延びている。第一仕切パネル 32 は、床面 F 上の執務空間 R を、第一方向 D a の第一側 D a 1 の作業空間 R 1 と、第二側 D a 2 の着座空間 R 2 と、に仕切る仕切機能を有している。

【0030】

第二仕切パネル 33 A は、什器部材 21 に対して、第二方向 D b の一方側 D b 1 に設けられている。第二仕切パネル 33 A は、第一仕切パネル 32 の第二方向 D b の一方側 D b 1 の端部から、什器部材 21 の第二方向 D b の一方側 D b 1 の端縁に沿って第一方向 D a に延びている。第二仕切パネル 33 A は、床面 F 上の執務空間 R を、第二方向 D b の一方側 D b 1 の着座空間 R 2 と、他方側 D b 2 の作業空間 R 1 と、に仕切る仕切機能を有している。

【0031】

図 2～図 4 に示すように、第一仕切パネル 32、第二仕切パネル 33 A は、それぞれ、支持部 35 と、パネル部 36 と、を備えている。

支持部 35 は、床面 F 上に設けられている。支持部 35 は、床面 F から上方に延びている。支持部 35 は、什器着座面 26 f、及び後述する平滑面 56 f よりも上方に突出するように延びている。支持部 35 の下部において、什器ベース部 25 と第一方向 D a 又は第二方向 D b で向かい合う部分は、什器ベース部 25 に、不図示のボルト等によって固定されている。支持部 35 は、仕切機能を有した機能部 31 として、パネル部 36 を下方から支持している。パネル部 36 は、支持部 35 上に設けられている。パネル部 36 は、支持部 35 の上端から上方に延びている。

【0032】

支持部 35 とパネル部 36 とは、実質的に一体であってもよい。本実施形態において、支持部 35 とパネル部 36 とは、同一のフレーム材（不図示）と、フレーム材の両面を覆うように設けられた一对の表面パネル 32 p（図 10 参照）と、を有している。支持部 35 とパネル部 36 とは、表面パネル 32 p を覆う表皮材の材質が異なっている。例えば、支持部 35 は、表面パネル 32 p の表面が木製、樹脂製等からなる平滑な表皮材 35 s で覆われている。これに対し、パネル部 36 は、表面パネル 32 p の表面が布製の表皮材 36 s で覆われている。

【0033】

第一仕切パネル 32 の支持部 35 は、後述する第一着座面 51 s（平滑面 56 f）よりも上方に露出した部分に、第一方向 D a の第二側 D a 2 を向く平面部 35 f を備えている

10

20

30

40

50

。平面部 3 5 f は、第一方向 D a の第二側 D a 2 からの荷重を支持可能である。平面部 3 5 f は、パネル部 3 6 において第一方向 D a の第二側 D a 2 を向く面と面一である。

第二仕切パネル 3 3 A の支持部 3 5 は、後述する第二着座面 5 2 s (平滑面 5 6 f) よりも上方に露出した部分に、第二方向 D b の一方側 D b 1 を向く平面部 3 5 g を備えている。平面部 3 5 g は、第二方向 D b の一方側 D b 1 からの荷重を支持可能である。平面部 3 5 g は、パネル部 3 6 において第二方向 D b の一方側 D b 1 を向く面と面一である。

【0034】

図 5 ～ 図 7 に示すように、什器 1 0 B の機能部材 3 0 B は、第一仕切パネル 3 2 と、第二仕切パネル 3 3 A と、第二仕切パネル 3 3 B と、を備えている。

【0035】

第二仕切パネル 3 3 B は、什器部材 2 1 に対して、第二方向 D b の他方側 D b 2 に設けられている。第二仕切パネル 3 3 B は、第一仕切パネル 3 2 の第二方向 D b の他方側 D b 2 の端部から、什器部材 2 1 の第二方向 D b の他方側 D b 2 の端縁に沿って第一方向 D a の第一側 D a 1 に延びている。第二仕切パネル 3 3 B は、床面 F 上の執務空間 R を、第二方向 D b の一方側 D b 1 の作業空間 R 1 と、他方側 D b 2 の着座空間 R 2 と、に仕切る仕切機能を有している。

【0036】

第二仕切パネル 3 3 B は、第一仕切パネル 3 2 、第二仕切パネル 3 3 A と同様、支持部 3 5 と、パネル部 3 6 と、を備えている。第二仕切パネル 3 3 B の支持部 3 5 は、第二方向 D b の他方側 D b 2 を向く平面部 3 5 h を備えている。平面部 3 5 h は、第二方向 D b の他方側 D b 2 からの荷重を支持可能である。平面部 3 5 h は、パネル部 3 6 において第二方向 D b の他方側 D b 2 を向く面と面一である。

【0037】

図 8 、図 9 に示すように、什器 1 0 C の機能部材 3 0 C は、第一仕切パネル 3 2 と、第二仕切パネル 3 3 A と、機能部 3 1 としてのシェルフ 3 4 と、を備えている。

【0038】

シェルフ 3 4 は、什器 1 0 C の什器部材 2 1 に対して、第二方向 D b の他方側 D b 2 に設けられている。シェルフ 3 4 は、第一仕切パネル 3 2 の第二方向 D b の他方側 D b 2 の端部から、什器部材 2 1 の第二方向 D b の他方側 D b 2 の端縁に沿って第一方向 D a の第一側 D a 1 に延びている。

【0039】

シェルフ 3 4 は、シェルフ基部 3 8 と、シェルフ基部 3 8 上に支持されたシェルフ本体 3 9 と、を備えている。シェルフ基部 3 8 は、床面 F 上に設置されている。シェルフ基部 3 8 は、例えば中空箱状に形成されている。シェルフ本体 3 9 は、棚支持板 3 9 a と、棚板 3 9 b と、を有している。棚支持板 3 9 a は、第一方向 D a に間隔をあけて複数枚 (例えば 3 枚) 設けられている。棚支持板 3 9 a は、第一方向 D a に交差する面に沿って形成されている。棚板 3 9 b は、上下方向に間隔をあけて、例えば 3 枚設けられている。各棚板 3 9 b は、上下方向に交差する面に沿って形成されている。各棚板 3 9 b は、複数の棚支持板 3 9 a 間に架け渡すように設けられている。棚支持板 3 9 a と棚板 3 9 b とで囲まれた空間は、第二方向 D b の両側に開放されている。

このようなシェルフ 3 4 は、機能部 3 1 として、棚支持板 3 9 a と棚板 3 9 b とで囲まれた空間に物品を収容する物品収容機能、最上段の棚板 3 9 b 上に物品を載置する物品載置機能を有している。また、シェルフ 3 4 は、床面 F 上の執務空間 R を、第二方向 D b の一方側 D b 1 の作業空間 R 1 と、他方側 D b 2 の着座空間 R 2 と、に仕切る仕切機能を有している。

【0040】

このような機能部材 3 0 A ～ 3 0 C は、それぞれ、床面 F 上の執務空間 R を、什器部材 2 1 が設けられて、利用者が什器部材 2 1 で各種の作業、業務等を行う作業空間 R 1 と、着座什器 5 0 が設けられた着座空間 R 2 とに仕切る。機能部材 3 0 A ～ 3 0 C によって作業空間 R 1 と着座空間 R 2 とが仕切られることにより、什器部材 2 1 は、平面視で二方向

10

20

30

40

50

もしくは三方向から囲まれた作業空間 R 1 に設置され、主に、一人もしくは少人数での作業に好適に用いることができる。一方、後述する着座什器 5 0 は、平面視で二方向もしくは三方向に開放された空間に設置されている。

【 0 0 4 1 】

＜着座什器 5 0＞

図 1 ～図 9 に示すように、各什器 1 0 （什器 1 0 A、1 0 B、1 0 C）において、着座什器 5 0 は、第一着座部 5 1 と、第二着座部 5 2 A、5 2 B と、を備えている。第一着座部 5 1、及び第二着座部 5 2 A、5 2 B は、什器本体 2 0 の上端 2 0 t （機能部材 3 0 の上端）よりも低く形成されている。

【 0 0 4 2 】

各什器 1 0 （什器 1 0 A、1 0 B、1 0 C）において、第一着座部 5 1 は、什器本体 2 0 に対して第一方向 D a の第二側 D a 2 に配置されている。第一着座部 5 1 は、什器部材 2 1 に対し、機能部材 3 0 を挟んで反対側に配置されている。第一着座部 5 1 は、第二方向 D b における什器本体 2 0 の全体よりも、第二方向 D b の一方側 D b 1 と他方側 D b 2 とに突出するように延びている。

【 0 0 4 3 】

図 1 ～図 3 に示すように、什器 1 0 A の第二着座部 5 2 A は、第一着座部 5 1 の第二方向 D b の一方側 D b 1 の端部から、第二仕切パネル 3 3 A に沿って第一方向 D a の第一側 D a 1 に延びている。什器 1 0 A において、第二着座部 5 2 B は、第一着座部 5 1 の第二方向 D b の他方側 D b 2 の端部から、第一方向 D a の第一側 D a 1 に延びている。第二着座部 5 2 B は、什器部材 2 1 よりも、第一方向 D a の第一側 D a 1 に突出するように延びている。第二着座部 5 2 B は、什器部材 2 1 よりも第一方向 D a の第一側 D a 1 に突出する部分では、第一方向 D a から見た際に、什器部材 2 1 の一部と重なるよう、第二方向 D b の一方側 D b 1 に延びている。

【 0 0 4 4 】

図 5 ～図 7 に示すように、什器 1 0 B の第二着座部 5 2 A は、第一着座部 5 1 の第二方向 D b の一方側 D b 1 の端部から、第二仕切パネル 3 3 A に沿って第一方向 D a の第一側 D a 1 に延びている。什器 1 0 B の第二着座部 5 2 B は、第一着座部 5 1 の第二方向 D b の他方側 D b 2 の端部から、第二仕切パネル 3 3 B に沿って第一方向 D a の第一側 D a 1 に延びている。

【 0 0 4 5 】

図 8、図 9 に示すように、什器 1 0 C の第二着座部 5 2 A は、第一着座部 5 1 の第二方向 D b の一方側 D b 1 の端部から、第二仕切パネル 3 3 A に沿って第一方向 D a の第一側 D a 1 に延びている。什器 1 0 C の第二着座部 5 2 B は、第一着座部 5 1 の第二方向 D b の他方側 D b 2 の端部から、シェルフ 3 4 に沿って第一方向 D a の第一側 D a 1 に延びている。第二着座部 5 2 B は、シェルフ 3 4 よりも、第一方向 D a の第一側 D a 1 に突出するように延びている。第二着座部 5 2 B は、シェルフ 3 4 よりも第一方向 D a の第一側 D a 1 に突出する部分では、第一方向 D a から見た際に、シェルフ 3 4 の一部と重なるよう、第二方向 D b の一方側 D b 1 に延びている。

【 0 0 4 6 】

第一着座部 5 1、第二着座部 5 2 A、5 2 B は、それぞれ、ベース部 5 5 と、カバー部材（上面部材）5 6 と、を備えている。

【 0 0 4 7 】

図 1 1 は、第一着座部 5 1 を、第一方向 D a から見た断面図である。

図 1 0、図 1 1 に示すように、第一着座部 5 1 のベース部 5 5 は、床面 F 上に設けられている。ベース部 5 5 は、機能部材 3 0 （支持部 3 5）の下部から第一方向 D a の第二側 D a 2 に突出している。ベース部 5 5 は、カバー部材 5 6 を下方から支持している。ベース部 5 5 は、例えば、上方から見た際の平面形状が、第一方向 D a を短辺とし、第二方向 D b を長辺とする、長方形とされている。ベース部 5 5 は、什器ベース部 2 5 と同じ高さを有している。第一着座部 5 1 のベース部 5 5 は、例えば金属製の箱型で、一对の側板

10

20

30

40

50

５５aと、後板５５bと、前板５５cと、を有している。なお、ベース部５５は、金属製に限らず、木製、樹脂製等であってもよい。

【００４８】

一対の側板５５aは、第二方向Ｄbに間隔をあけて設けられている。各側板５５aは、第二方向Ｄbに直交する面に沿っている。

後板５５bは、ベース部５５において、第一方向Ｄaの第一側Ｄa1に配置されている。後板５５bは、一対の側板５５aの第一方向Ｄaの第一側Ｄa1の端部同士を接続している。後板５５bは、第一方向Ｄaに直交する面に沿っている。

【００４９】

前板５５cは、ベース部５５において、第一方向Ｄaの第二側Ｄa2に配置されている。前板５５cは、一対の側板５５aの第一方向Ｄaの第二側Ｄa2の端部同士を接続している。前板５５cは、第一方向Ｄaに交差する面に沿っている。本実施形態において、前板５５cにおける第一方向Ｄaの第二側Ｄa2を向く面は、第二方向Ｄbから見た際に、上方から下方に向かって、第一方向Ｄaの第一側Ｄa1に傾斜した傾斜面５５sを形成している。ベース部５５の下端部には、下方に向けて突出し、床面Ｆ上に立脚する脚部５５fが設けられている。

10

【００５０】

第二着座部５２A、５２Bのベース部５５は、上方から見た際に、上記第一着座部５１のベース部５５に対して９０°向きを異ならせて配置されている。第二着座部５２Aのベース部５５は、前板５５cを第二方向Ｄbの一方側Ｄb1に向けて配置されている。第二着座部５２Bのベース部５５は、前板５５cを第二方向Ｄbの他方側Ｄb2に向けて配置されている。

20

【００５１】

上記のようなベース部５５において、支持部３５の下部に沿う部分は、支持部３５に、不図示のボルト等によって固定されている。これにより、支持部３５が着座什器５０のベース部５５と什器部材２１の什器ベース部２５との間に挟み込まれた状態で固定されるので、機能部材３０が強固に支持される。その結果、平面部３５f、３５g、３５hにおいて、利用者による着座荷重を、安定して支持できる。

【００５２】

また、ベース部５５は、必要に応じて、複数個が並べて配置されている。例えば、図３、図６、図９に示すように、什器１０A、１０B、１０Cの第一着座部５１においては、ベース部５５が第二方向Ｄbに２つ並べて配置されている。

30

図１２は、ベース部５５同士の連結構造を示す断面図である。

図１２に示すように、第二方向Ｄbで隣り合うベース部５５同士は、側板５５a同士を、ボルト・ナット５９で連結されている。このとき、第二方向Ｄbの一方側Ｄb1のベース部５５の側板５５aと、第二方向Ｄbの他方側Ｄb2のベース部５５の側板５５aとの間には、必要に応じて、筒状のカラー５８を挟み込んだ状態で、ボルト・ナット５９により連結する。

【００５３】

図１０、図１１に示すように、ベース部５５は、一対の側板５５aと、後板５５bと、前板５５cとに囲まれて、上下に開口する開口部５５kを有している。

40

【００５４】

カバー部材５６は、各ベース部５５の開口部５５kを上方から覆うように設けられている。カバー部材５６は、上下方向に所定の厚さを有した、木製、樹脂製、金属製等の、例えば座部２６よりも硬質な板材によって形成されている。

【００５５】

カバー部材５６は、ベース部５５上に載置されている。カバー部材５６の下面には、下方に突出するビーム材５６tが設けられている。第一着座部５１のカバー部材５６において、ビーム材５６tは、第二方向Ｄbの両端部に設けられている。第一着座部５１のカバー部材５６において、ビーム材５６tは、第一方向Ｄaに延びている。第二着座部５２A

50

、５２Ｂのカバー部材５６において、ビーム材５６ｔは、第一方向Ｄａの両端部に設けられている。第二着座部５２Ａ、５２Ｂのカバー部材５６において、ビーム材５６ｔは、第二方向Ｄｂに延びている。

カバー部材５６をベース部５５上に載置した状態で、ビーム材５６ｔは、開口部５５ｋの内側に挿入される。ビーム材５６ｔが、ベース部５５を構成する一対の側板５５ａ、後板５５ｂ、前板５５ｃに接触することによって、カバー部材５６の第一方向Ｄａ、第二方向Ｄｂにおける一定寸法以上の位置ずれが抑えられている。

【００５６】

カバー部材５６は、その上面に、上方を向く平滑面５６ｆを有している。第一着座部５１において、平滑面５６ｆは、第一着座面５１ｓを形成している。第二着座部５２Ａ、５２Ｂにおいて、平滑面５６ｆは、第二着座面５２ｓを形成している。すなわち、第一着座面５１ｓ、及び第二着座面５２ｓの全体は、同じ高さで連続する平滑面５６ｆにより形成されている。第一着座面５１ｓ、第二着座面５２ｓは、什器着座面２６ｆよりも下方に位置するように形成されている。本実施形態において、着座什器５０の第一着座面５１ｓ、第二着座面５２ｓは、床面Ｆから、例えば２００ｍｍ以上４５０ｍｍ以下の高さに形成されている。

【００５７】

利用者は、第一着座面５１ｓ、第二着座面５２ｓ上に着座可能とされている。利用者は、第一着座面５１ｓ、第二着座面５２ｓに着座した状態で、機能部材３０の支持部３５を背凭れとして利用することができる。

第一着座部５１に着座した利用者は、第一方向Ｄａの第二側Ｄａ２を向き、第一方向Ｄａの第一側Ｄａ１の支持部３５に背を向ける。支持部３５の平面部３５ｆは、利用者が支持部３５に寄りかかった際に、例えば第一方向Ｄａの第二側Ｄａ２からの利用者の着座荷重を支持可能である。

第二着座部５２Ａに着座した利用者は、第二方向Ｄｂの一方側Ｄｂ１を向き、第二方向Ｄｂの他方側Ｄｂ２の支持部３５に背を向ける。第二着座部５２Ａの支持部３５の平面部３５ｇは、利用者が支持部３５に寄りかかった際に、例えば第二方向Ｄｂの一方側Ｄｂ１からの利用者の着座荷重を支持可能である。

第二着座部５２Ｂに着座した利用者は、第二方向Ｄｂの他方側Ｄｂ２を向き、第二方向Ｄｂの一方側Ｄｂ１の支持部３５に背を向ける。第二着座部５２Ｂの支持部３５の平面部３５ｇは、利用者が支持部３５に寄りかかった際に、例えば第二方向Ｄｂの他方側Ｄｂ２からの利用者の着座荷重を支持可能である。

【００５８】

<オプション部材１００>

図１３は、着座什器５０の平滑面５６ｆ上に載置されたオプション部材１００の例を示す平面図である。図１４は、着座什器５０の平滑面５６ｆ上に載置されたオプション部材１００の例を示す正面図である。図１５は、着座什器５０の平滑面５６ｆ上に載置された他のオプション部材１００の例を示す正面図である。

図１３～図１５に示すように、着座什器５０の平滑面５６ｆ（第一着座面５１ｓ、第二着座面５２ｓ）上には、各種のオプション部材１００が載置可能とされている。着座什器５０の平滑面５６ｆ上には、複数種の中から選択された少なくとも二種のオプション部材１００が載置される。各オプション部材１００は、平滑面５６ｆ上における載置位置が変更可能とされている。各オプション部材１００は、第一着座面５１ｓ上において、載置位置が第二方向Ｄｂにおいて変更可能とされている。各オプション部材１００は、第二着座面５２ｓ上において、載置位置が第一方向Ｄａにおいて変更可能とされている。本実施形態では、各オプション部材１００は、平滑面５６ｆ上をスライド移動、又は持ち運び等によって、平滑面５６ｆ上における載置位置が無段階に変更可能とされている。

【００５９】

オプション部材１００としては、例えば、第一クッション部材１１０（図１３、図１４参照）、第二クッション部材１２０（図１３、図１４参照）、第三クッション部材１３０

10

20

30

40

50

(図 15 参照) が例示できる。

【0060】

図 13、図 14 に示すように、第一クッション部材 110 は、上面から見た際に、例えば、正形状に形成されている。第一クッション部材 110 は、互いに平行に形成された上面 110 t、及び下面 110 b を有している。第一クッション部材 110 は、上面 110 t の平面積に対し、下面 110 b の平面積が大きく設定され、上面 110 t から下面 110 b に向かって、その平面積が漸次増大する、角錐台形状に形成されている。第一クッション部材 110 は、平滑面 56 f よりも軟質で、弾力性を有する適宜のクッション材料によって形成されている。このような第一クッション部材 110 は、下面 110 b を平滑面 56 f に向けた状態で、平滑面 56 f 上に載置される。これにより、第一クッション部材 110 は、平滑面 56 f に下方から支持される。利用者は、第一クッション部材 110 の上面 110 t に着座することができる。また、利用者は、第一クッション部材 110 の上面 110 t を、物品を載置する台、各種の作業を行うテーブル代わりに利用することもできる。

10

【0061】

第二クッション部材 120 は、上面から見た際に、例えば、長方形に形成されている。第二クッション部材 120 は、第一クッション部材 110 に対して、上方から見た際の形状、大きさが異なっている。また、第二クッション部材 120 は、第一クッション部材 110 に対して、高さが低く形成されている。第二クッション部材 120 は、互いに平行に形成された上面 120 t、及び下面 120 b を有している。第二クッション部材 120 は、上面 120 t と下面 120 b の平面積が同一とされた、直方体状に形成されている。第二クッション部材 120 は、下面 120 b を平滑面 56 f に向けた状態で、平滑面 56 f 上に載置される。これにより、第二クッション部材 120 は、平滑面 56 f に下方から支持される。利用者は、第二クッション部材 120 の上面 120 t に着座することができる。第二クッション部材 120 は、平滑面 56 f よりも軟質で、弾力性を有する適宜のクッション材料によって形成されている。

20

【0062】

図 15 に示すように、第三クッション部材 130 は、上下方向に所定の厚さを有した、例えば円柱状に形成されている。第三クッション部材 130 は、上下方向の一方側を向く第一平面部 130 a と、上下方向の他方側を向く第二平面部 130 b と、を有している。第三クッション部材 130 は、クッション本体 131 と、板部 132 と、を備えている。

30

クッション本体 131 は、平滑面 56 f よりも軟質で、弾力性を有する適宜のクッション材料によって形成されている。板部 132 は、クッション本体 131 に対して、上下方向の他方側に設けられている。板部 132 は、例えば、木製、樹脂製、金属製等、クッション本体 131 よりも硬い材料で形成されている。このようにして、第一平面部 130 a は、軟質なクッション本体 131 によって形成されている。第二平面部 130 b は、硬質な板部 132 によって形成されている。

【0063】

第三クッション部材 130 は、第一平面部 130 a、及び第二平面部 130 b のいずれか一方を平滑面 56 f に向け、第一平面部 130 a、及び第二平面部 130 b の他方を上方に向けた状態で利用可能である。例えば、第二平面部 130 b を平滑面 56 f に向け、第一平面部 130 a を上方に向けた状態では、利用者は、第一平面部 130 a 上に着座することができる。また、第一平面部 130 a を平滑面 56 f に向け、第二平面部 130 b を上方に向けた状態では、利用者は、第一平面部 130 a よりも硬質な板部 132 によって形成された第二平面部 130 b 上に、各種の物品を安定的に載置することができる。

40

【0064】

このような第一クッション部材 110、第二クッション部材 120、第三クッション部材 130 の各々は、高さが異なるものを、複数種用意してもよい。このような第一クッション部材 110、第二クッション部材 120、第三クッション部材 130 は、上方から見た際の形状が、上記に例示した形状とは異なる、例えば、楕円形状、多角形状等、適宜他

50

の形状であってもよい。

【0065】

図16は、他のオプション部材100の例を示す図である。

図16に示すように、オプション部材100として、テーブル天板145を下方から支持するテーブル支持部材140を備えるようにしてもよい。テーブル支持部材140は、テーブル天板145を下方から支持している。テーブル天板145は、上面に作業面145fを形成する。テーブル支持部材140は、テーブル天板145と、平滑面56fとの間に配置されている。テーブル支持部材140を、第一着座面51s上に載置した場合、テーブル天板145は、第一着座面51sから、第一方向Daにおいて、第二側Da2に張り出すように延びている。上方から見た際に、床面F上において、什器部材21から第一方向Daの第二側Da2に離間した位置には、支持部材148が設けられている。支持部材148は、床面Fから上方に延びている。テーブル天板145は、テーブル支持部材140と、支持部材148との間に架け渡されている。

10

【0066】

また、オプション部材100として、上記した以外にも、例えば、板状のトレイ（不図示）等を備えるようにしてもよい。

【0067】

<配線収容部200>

図10、図11に示すように、什器10は、それぞれ、配線収容部200を有している。配線収容部200は、配線収容空間201を有したベース部55と、カバー部材56と、を備えている。配線収容部200（配線収容空間201）は、着座什器50に複数のベース部55が配置されている場合、少なくとも一つのベース部55に形成されている。

20

【0068】

配線収容空間201は、着座什器50のベース部55の内部に形成されている。配線収容空間201は、一对の側板55aと、後板55bと、前板55cとに囲まれて形成されている。配線収容空間201は、開口部55kを通して、上方に開口している。配線収容空間201は、ベース部55内で、床面Fに沿う方向に連続している。

この配線収容空間201内には、電源タップ250等の配線部材が収容可能とされている。電源タップ250は、配線収容空間201内で、開口部55kの下端開口を通じて、床面F上に配置されている。

30

【0069】

配線収容空間201は、カバー部材56により、上方から覆われている。カバー部材56は、開口部55kに対して着脱可能とされているので、開口部55k（上端開口）を開閉可能に閉塞している。このような配線収容空間201は、着座空間R2においてカバー部材56を開くことで、開口部55kを通じてアクセス可能とされている。したがって、配線収容空間201は、機能部材30に対して第一方向Daの第二側Da2からアクセス可能である。

【0070】

機能部材30の第一仕切パネル32は、連通開口220を有している。連通開口220は、第一仕切パネル32の支持部35において、カバー部材56よりも下方に位置する部分に形成されている。連通開口220は、支持部35の下端縁が下方に開口するように切り欠かれることで形成されている。連通開口220は、第一仕切パネル32の支持部35を、第一方向Daの第一側Da1と第二側Da2とに連通するように形成されている。連通開口220は、着座什器50のカバー部材56よりも下方位置において、配線収容空間201と、作業空間R1とを連通している。本実施形態において、連通開口220は、第一方向Daの第一側Da1の作業空間R1に設けられた什器ベース部25内に連通している。

40

【0071】

連通開口220は、配線収容空間201内に収容された電源タップ250に一端が接続された配線212を、配線収容空間201から什器ベース部25内に引き回すことができ

50

る。配線 2 1 2 の他端は、什器ベース部 2 5 内で、例えば、側板 2 5 a や前板 2 5 c 等に設けられたコネクタ接続部 2 6 0 に接続されている。コネクタ接続部 2 6 0 は、電源コンセント、USB コネクタ、LAN コネクタ等の配線コネクタが着脱可能に接続される。

【0072】

図 10 に示すように、機能部材 3 0 の第一仕切パネル 3 2 内には、壁内配線挿通部 2 3 0 が形成されている。第一仕切パネル 3 2 は、例えば、金属製のフレーム材と、フレーム材に対して第一方向 D a の両側に設けられた一对の表面パネル 3 2 p と、を有している。これにより、第一仕切パネル 3 2 (フレーム材) は、中空構造とされて、一对の表面パネル 3 2 p 同士の間、壁内配線挿通部 2 3 0 が形成されている。壁内配線挿通部 2 3 0 の下端は、連通開口 2 2 0 に連通している。これにより、壁内配線挿通部 2 3 0 は、カバー部材 5 6 よりも下方位置において、連通開口 2 2 0 を介して配線収容空間 2 0 1 と連通している。

10

【0073】

壁内配線挿通部 2 3 0 は、配線収容空間 2 0 1 から連通開口 2 2 0 を介して導入された配線 2 1 3 を、その内部に挿通可能とされている。配線 2 1 3 の一端は、配線収容空間 2 0 1 内に収容された電源タップ 2 5 0 に接続されている。

第一仕切パネル 3 2 において、第一方向 D a の第一側 D a 1 及び第二側 D a 2 の少なくとも一方を向く壁側面を形成する表面パネル 3 2 p には、コンセント等のコネクタ接続部 2 7 0 が設けられている。配線 2 1 3 の他端は、壁内配線挿通部 2 3 0 内で、コネクタ接続部 2 7 0 に接続されている。コネクタ接続部 2 7 0 は、第一仕切パネル 3 2 の外部から、各種電気製品の電源配線等の配線コネクタが着脱可能に接続される。

20

【0074】

＜什器システムにおける什器の配置例＞

図 1 に示すように、什器システム 1 においては、上記したような複数の什器 1 0 (什器 1 0 A ~ 1 0 C) が、床面 F に沿った方向で間隔をあけて配置されている。

什器 1 0 A は、第一方向 D a を床面 F に沿うように設定した X 方向に沿わせ、第二方向 D b を、床面 F に沿い、X 方向に直交するよう設定した Y 方向に沿わせて配置されている。

什器 1 0 C は、第一方向 D a を X 方向に沿わせ、第二方向 D b を Y 方向に沿わせて配置されている。ただし、什器 1 0 A における第一方向 D a の第一側 D a 1 及び第二側 D a 2 と、什器 1 0 C における第一方向 D a の第一側 D a 1 及び第二側 D a 2 とは、X 方向において互いに反対向きとなっている。

30

また、什器 1 0 B は、第二方向 D b を X 方向に沿わせ、第一方向 D a を Y 方向に沿わせて配置されている。

【0075】

什器 1 0 A (第一什器) と什器 1 0 C (第二什器) とは、着座什器 5 0 の第一着座部 5 1 同士を、向かい合わせて配置されている。これにより、什器 1 0 A における第一方向 D a を基準とすると、什器 1 0 A に対し、什器 1 0 C は、什器 1 0 A における第一方向 D a の第二側 D a 2 に離間して配置されている。

第一什器としての什器 1 0 A は、什器本体 2 0 A (第一什器本体) と、Y 方向に延びる第一着座面 5 1 A s を有する第一着座部 5 1 A と、を備えている。

40

第二什器としての什器 1 0 C は、什器本体 2 0 C (第二什器本体) と、Y 方向に延びる第一着座面 5 1 C s (第三着座面) を有する第一着座部 5 1 C (第三着座部) と、を備えている。

つまり、什器 1 0 A の第一着座部 5 1 A と、什器 1 0 B の第一着座部 5 1 C とが、X 方向に間隔をあけて、互いに平行に配置されている。これにより、什器 1 0 A の第一着座部 5 1 A と、什器 1 0 C の第一着座部 5 1 C との間に、床面 F 上で Y 方向に連続する通路状の通路空間部 T 1 が形成されている。

【0076】

また、什器 1 0 A と、什器 1 0 B とは、什器 1 0 A の第二着座部 5 2 B と、什器 1 0 B

50

の第一着座部 5 1 B とを、Y 方向に間隔をあけて、向かい合わせて配置されている。什器 1 0 C と什器 1 0 B とは、什器 1 0 C の第二着座部 5 2 A と、什器 1 0 B の第一着座部 5 1 B とを、Y 方向に間隔をあけて、向かい合わせて配置されている。

什器 1 0 A の第二着座部 5 2 B、及び什器 1 0 C の第二着座部 5 2 A と、什器 1 0 B の第一着座部 5 1 B とが、Y 方向に間隔をあけて、互いに平行に配置されている。これにより、什器 1 0 A の第二着座部 5 2 B、及び什器 1 0 C の第二着座部 5 2 A と、什器 1 0 B の第一着座部 5 1 B との間に、上方から見た際に、通路空間部 T 1 に直交し、床面 F 上で X 方向に連続する通路状の直交通路空間部 T 2 が形成されている。

【0077】

このように、本実施形態において、什器 1 0 は、床面 F 上に配置された着座什器 5 0 と、複数種の中から選択された少なくとも二種のオプション部材 1 0 0 と、を含む。着座什器 5 0 は、上方を向いて荷重を支持可能な平滑面 5 6 f を有し、オプション部材 1 0 0 は、平滑面 5 6 f 上に載置され、かつ平滑面 5 6 f 上における載置位置が、第二方向 D b で変更可能とされている構成とした。

この構成によれば、着座什器 5 0 の平滑面 5 6 f 上に、少なくとも二種のオプション部材 1 0 0 を載置することで、利用者は、オプション部材 1 0 0 を用いて様々な形態で着座什器 5 0 に着座することができる。例えばオプション部材 1 0 0 が、第一クッション部材 1 1 0、第二クッション部材 1 2 0、第三クッション部材 1 3 0 である場合、利用者は、着座什器 5 0 の平滑面 5 6 f 上にオプション部材 1 0 0 を介して着座することで、座り心地の向上や座面高さの変更を実現できる。また、オプション部材 1 0 0 が、載置台として利用可能な第三クッション部材 1 3 0 である場合、利用者は、利用者が平滑面 5 6 f 上に着座した状態で、第二平面部 1 3 0 b 上に物品を載置することで、物品を使用する際の作業性の向上や物品の転倒抑制等を図ることができる。しかも、オプション部材 1 0 0 は、平滑面 5 6 f 上における載置位置が第二方向 D b で変更可能であるため、平滑面 5 6 f 上の任意の位置に着座することができる。これにより、例えば複数人で什器 1 0 を利用した場合、各人が幅方向の好きな位置で好きなオプション部材 1 0 0 を利用することができる。したがって、使用形態の自由度を高めることが可能となる。

【0078】

本実施形態において、着座什器 5 0 は、ベース部 5 5 と、平滑面 5 6 f を有し、ベース部 5 5 上に配置されたカバー部材 5 6 と、を含む構成とした。

この構成によれば、ベース部 5 5 上にカバー部材 5 6 を設けることで、オプション部材 1 0 0 が載置可能な平滑面 5 6 f を有した着座什器 5 0 を容易に形成することができる。

【0079】

本実施形態において、複数種のオプション部材 1 0 0 は、高さが異なる構成とした。

この構成によれば、高さが異なる少なくとも二種のオプション部材 1 0 0 を、着座什器 5 0 の平滑面 5 6 f 上に載置することで、利用者は、好みの高さに応じたオプション部材 1 0 0 を利用することができる。

【0080】

本実施形態において、複数種のオプション部材 1 0 0 は、上方から見た際の平面形状が異なる構成とした。

この構成によれば、平面形状が異なる少なくとも二種のオプション部材 1 0 0 を、着座什器 5 0 の平滑面 5 6 f 上に載置することで、利用者は、用途等に応じて、好みの平面形状を有したオプション部材 1 0 0 を利用することができる。

【0081】

本実施形態において、オプション部材 1 0 0 は、平滑面 5 6 f 上に載置した状態で、着座可能である構成とした。

この構成によれば、少なくとも二種のオプション部材 1 0 0 を、着座什器 5 0 の平滑面 5 6 f 上に載置することで、利用者は、好みの種類のオプション部材 1 0 0 上に着座することができる。

【0082】

本実施形態において、オプション部材１００としての第三クッション部材１３０は、上下方向の一方側を向くとともに、上下方向の一方側を平滑面５６ｆに向けた状態でオプション部材１００を平滑面５６ｆ上に載置した際に、平滑面５６ｆに支持される第一平面部１３０ａを有する構成とした。

この構成によれば、第三クッション部材１３０の第一平面部１３０ａを平滑面５６ｆに向けた状態で、オプション部材１００を平滑面５６ｆ上に載置することで、第三クッション部材１３０を安定的に平滑面５６ｆ上に支持させることができる。

【００８３】

本実施形態において、第三クッション部材１３０は、上下方向の他方側を向くとともに、第一平面部１３０ａよりも硬い材料で形成された第二平面部１３０ｂを有する構成とした。

10

この構成によれば、第三クッション部材１３０の第一平面部１３０ａを平滑面５６ｆに向けた状態で、オプション部材１００を平滑面５６ｆ上に載置することで、第一平面部１３０ａよりも硬い材料で形成された第二平面部１３０ｂが、上方を向く。これにより、第二平面部１３０ｂ上に、物品を安定的に載置することができる。

【００８４】

本実施形態において、オプション部材１００としてのテーブル支持部材１４０は、上面に作業面１４５ｆを形成するテーブル天板１４５と平滑面５６ｆとの間に配置されて、テーブル天板１４５を下方から支持する構成とした。

この構成によれば、着座什器５０の平滑面５６ｆ上に、テーブル支持部材１４０を介してテーブル天板１４５を設けることができる。これにより、利用者は、着座什器５０を、より高い自由度で利用することができる。

20

【００８５】

本実施形態において、上方から見た際に、床面Ｆ上において第二方向Ｄｂに交差する第一方向Ｄａで着座什器５０から離間した位置には、上方に延びる支持部材１４８が設けられ、テーブル天板１４５は、第二方向Ｄｂにおいて平滑面５６ｆから張り出すように延びるとともに、テーブル支持部材１４０と支持部材１４８との間に架け渡されている構成とした。

この構成によれば、テーブル天板１４５を、平滑面５６ｆ上に載置されたテーブル支持部材１４０と、床面Ｆ上に配置した支持部材１４８とで、支持することができる。

30

【００８６】

本実施形態において、着座什器５０に対し、上方から見た際に、第二方向Ｄｂに交差する第一方向Ｄａの第一側Ｄａ１に配置され、床面Ｆ上の空間を第一方向Ｄａの第一側Ｄａ１と第二側Ｄａ２とに仕切る仕切機能、物品を収容する物品収容機能、物品を載置する物品載置機能のうちの少なくとも一つの機能を有する機能部３１を備えた機能部材３０、を更に備える構成とした。

この構成によれば、機能部３１を備えた機能部材３０をさらに備えることで、什器システム１の使用形態の自由度を、さらに高めることが可能となる。

【００８７】

（その他の実施形態）

40

以上、本発明の好ましい実施例を説明したが、本発明はこれら実施例に限定されることはない。本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、構成の付加、省略、置換、及びその他の変更が可能である。本発明は上述した説明によって限定されることはなく、添付の特許請求の範囲によってのみ限定される。

例えば、上述した実施形態では、什器１０が、什器本体２０を備える構成としたが、什器本体２０を備えない構成としてもよい。

【００８８】

上述した実施形態では、着座什器５０を、ベース部５５とカバー部材５６とを備えるようにしたが、これに限られず、着座什器５０は、オプション部材１００を載置可能な平滑面５６ｆを有しているのであれば、適宜他の構成としてもよい。

50

【0089】

また、オプション部材100として、第一クッション部材110、第二クッション部材120、第三クッション部材130、テーブル支持部材140を例示したが、オプション部材100は、上記に例示した以外の種類のものであってもよい。

【0090】

上述した実施形態では、利用者は、平滑面56f上に載置したオプション部材100に着座するようにしたが、平滑面56f上に直接着座することも可能である。

【0091】

上述した実施形態では、複数の什器10により什器システム1を構成するようにしたが、これに限られず、什器10を単体で用いることも可能である。

10

その他、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、上述した実施形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能であり、また、上述した各変形例を適宜組み合わせてもよい。

【符号の説明】

【0092】

10、10A～10C 什器（什器ユニット）

30、30A～30C 機能部材

31 機能部

35f 平面部

50 着座什器

20

55 ベース部

56 カバー部材（上面部材）

56f 平滑面

100 オプション部材

110 第一クッション部材（オプション部材）

120 第二クッション部材（オプション部材）

130 第三クッション部材（オプション部材）

130a 第一平面部

130b 第二平面部

140 テーブル支持部材（オプション部材）

30

145 テーブル天板

145f 作業面

148 支持部材

Da 第一方向（交差方向）

Da1 第一側

Da2 第二側

Db 第二方向（幅方向）

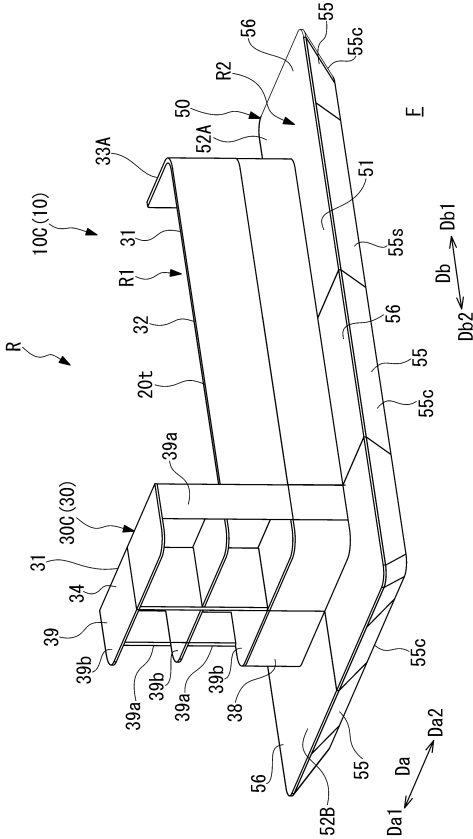
Db1 一方側

Db2 他方側

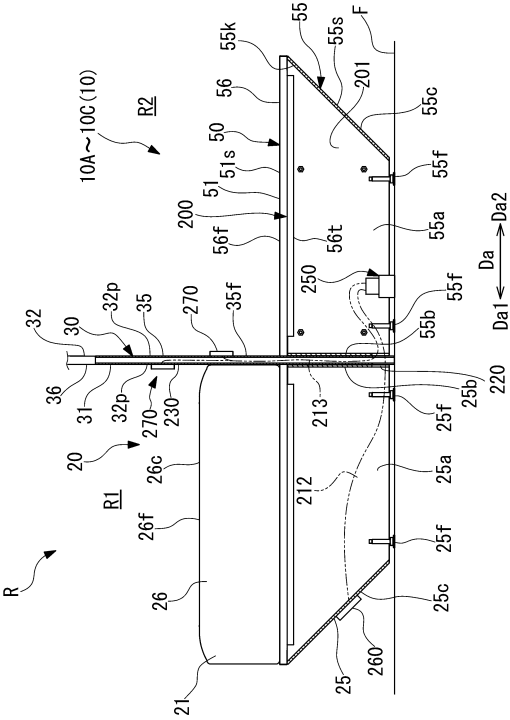
F 床面

40

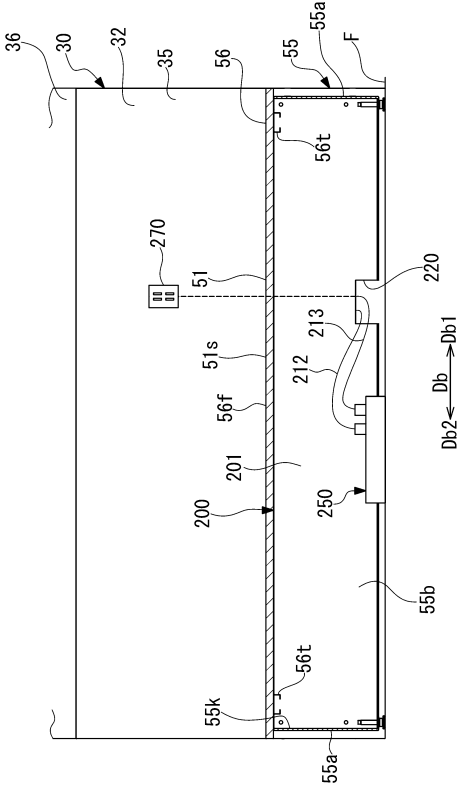
【図 9】



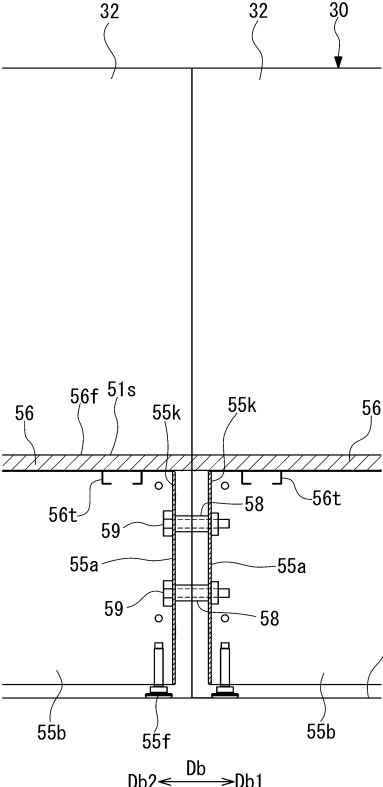
【図 10】



【図 11】



【図 12】



10

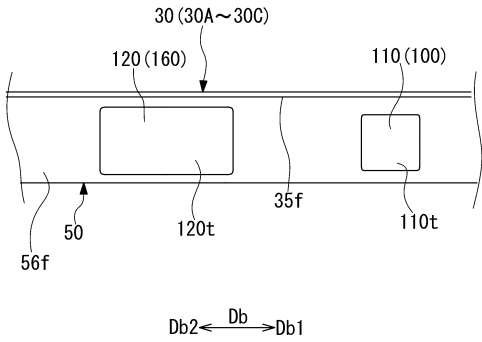
20

30

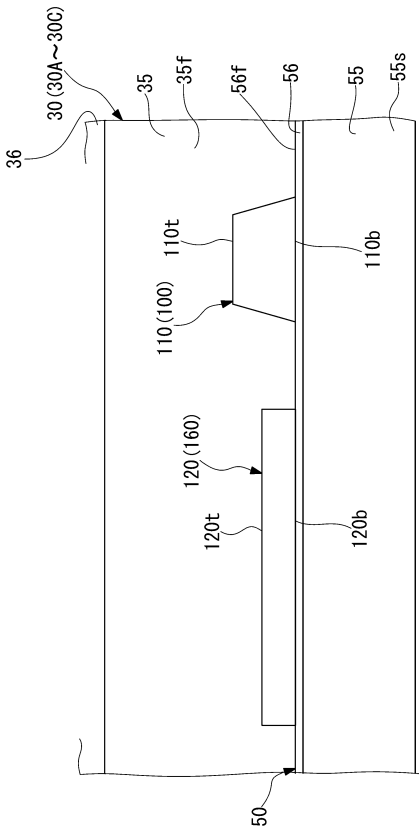
40

50

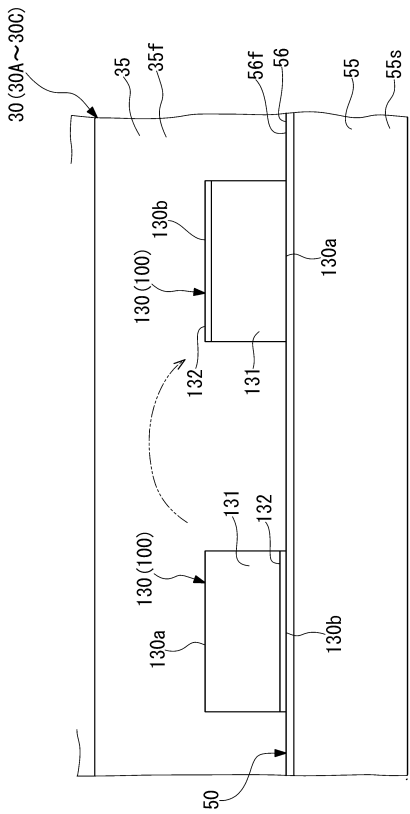
【図 1 3】



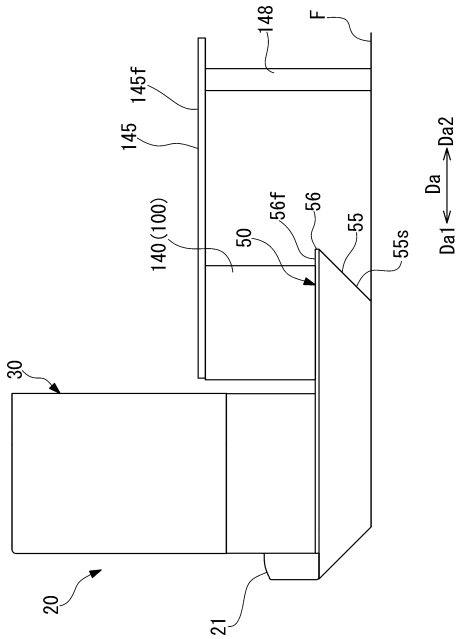
【図 1 4】



【図 1 5】



【図 1 6】



10

20

30

40

50